

学外団体との連携によるキャリア科目

袴田麻里・松田紀子（静岡大学）

hakamata.mari@shizuoka.ac.jp

matsuda.noriko@shizuoka.ac.jp

【要約】

静岡大学は外国人留学生の日本就職支援として「静岡でグローバルキャリアを考える」という科目を開講している。この科目は、県内自治体や経済団体等と連携し、キャリアプランの明確化、静岡県の産業・企業理解、主体的なキャリア形成を目的として開講する。外部機関との連携により、大学単独では提供困難な実践的情報や企業交流の機会を留学生に提供し、効果的な就職支援を目指す。

1. はじめに

厚生労働省は『第11次職業能力開発基本計画』において、2021年から2025年の今後の方向性の一つとして以下を提示している。

労働市場の不確実性の高まりや職業人生の長期化等を踏まえ、労働者が時代のニーズに即したスキルアップができるよう、キャリアプランの明確化を支援するとともに、幅広い観点から学びの環境整備を推進する。

（厚生労働省(2021)『第11次職業能力開発基本計画』より）

この計画は全ての労働者を対象とし、キャリアコンサルティングの利用や、学び直しなどが基本施策となっている。外国人留学生は、もともと労働市場の不確実性や、時代のニーズに即したスキルアップを意識しているが、キャリアプランについては明確化どころか意識すらしていない場合もあり、在学中からの支援が必要だと考える。

留学生自身が適切なタイミングで必要な情報を得て、自ら進路を選択できるようになることは、非常に重要である。留学生が主体的にキャリアを形成できることを目的に、学外の団体等と連携した静岡大学での就職支援の実践を報告する。

2. 留学生対象の就職支援

2.1 留学生就職促進プログラム

文部科学省は2017年から留学生就職促進プログラムを開始した。大学と地域の自治体や産業界が連携し、国内企業・日系企業への就職を目指し「日本語能力」「日本での企業文化等キャリア教育」「中長期インターンシップ」を一体として学ぶ教育プログラムの開発と実施が求められ、当時3割程度であった就職率を5割にすることが掲げられた。静岡県では、2021年まで、公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム（以下、ふじのくにコンソーシアム）が県内の複数大学を取りまとめて「ふじのくに留学生就職促進プログラム(Shizuoka Career Development Program for International Students：以下 SCDP)」を実施した（鈴木他 2019）。

SCDPは、キャリア教育と日本語教育の融合を取り入れたプログラムであった。体系的な学習機会を留学生に提供することが奏功し、日本での就職に対する留学生の意識啓発促進及び能力が向上した（日本国際協力センター 2020）。SCDPで「日本での企業文化等キャリア教育」として設定したのが、留学生特化のキャリア教育プログラム「SCDP 共通プログラム」である（表1）。県内の自治体や各種団体が実施するセミナー・イベントを取り込み15回で構成された。この共通プログラムによって、留学生はさまざまなセミナーやイベントの中から、必要なものに参加し、日本での就職についてイメージを作り、実践的な講習などを順番に受けることができるようになった。

表1：SCDP 共通プログラム

①	SCDP 留学生就職ガイダンスⅠ(*) 「プログラム説明会～日本での就職の心構え～」
②	SCDP 留学生就職ガイダンスⅡ(*) 就職活動の基礎知識「就職までの地図」
③	留学生のための就職支援講座Ⅰ(*) 「静岡県の経済・産業」 静岡県の産業の特色、県内企業の特徴
④	留学生のための就職支援講座Ⅱ(*) 「静岡県の企業」 静岡県の企業の魅力・地域が求める人材について
⑤～⑧	SCDP 集中セミナーⅠ(*) 自分自身の再確認、在留資格、 プレゼンテーション「自分を伝える」
⑨	留学生のための就職支援講座Ⅲ「OB/OG 交流会」パネルディスカッション
⑩	静岡県の企業を知る(企業見学バスツアー)
⑪～⑭	SCDP 集中セミナーⅡ(*) 日本での就職活動の基礎 書類作成、面接対策、模擬面接
⑮	「企業交流会・就職ガイダンス」 日本で就職のアウトライン、県内企業の交流会

(*)=座学、赤=自治体や外部団体の企画

2.2 留学生就職促進教育プログラム認定制度

2022年度からは、静岡大学が留学生就職促進教育プログラム認定制度の認定を受け、在学生に対して静岡大学独自の留学生就職支援就職支援を行っている。引き続き「日本語教育」「キャリア教育（日本企業論等）」「インターンシップ」を一体として提供する教育プログラムの実施と、就職率5割が掲げられているが、これに加えて教育プログラムの修了率8割が求められる。

静岡大学単独での実施を前に、留学生支援における課題を検討した結果、効果的な支援が困難な要因が3点挙げられた（表2）。まず、時間的、物理的な要因である。支援対象が県内の留学生から静岡大学の留学生となり実施規模は縮小したが、留学生の所属は全学年、全部局にわたっている。授業時間割がそれぞれ異なるため、留学生全員はおろか、ある学部、ある学年に絞っても、全員に都合の良い日時はない。

表2：留学生就職支援の課題

要因	具体的な内容
時間的、物理的な要因	全学年、全学部に点在して在籍する留学生全てに都合のよい日時はない。
周知方法	メール一斉送信、SNS掲載は見過ごされがちである。
留学生の意識	目の前のことで精一杯である。 忘れたり、アルバイトを優先したりする。 企業を知らない。

2点目は、周知方法である。基本的に大学からの通知は、HP や SNS への掲載とともに静岡大学の学習管理システムから各学生のメールアドレスへ送付される。しかしながら、留学生向けのセミナーやイベントの通知は、多すぎる大学からの連絡に埋もれてしまっていた。

加えて、留学生自身の意識も要因の一つである。数年後の就職活動は優先順位が低く、日々の勉強生活に忙しく忘れてしまったり、アルバイトを優先したりする学生もいた。また、企業交流会があっても、自分が知らない企業だからという理由であえて参加しないという選択をする留学生も少なからずいた。

実は、これらの課題を解決する手段として開発されたのが「SCDP 共通プログラム」であった（鈴木他 2020）が、静岡県がプログラムの終了を決定したことから、この枠組みが機能しなくなってしまった。

2.3 ABP 日本就職コース

静岡大学が独自で開設した留学生就職促進教育プログラムは、「ABP 日本就職コース」である（表 3）。留学生は、それぞれの区分から必要な単位を合計 11 単位以上修得することによってコースを修了する。認定制度の三本柱の一つ「キャリア教育（日本企業論等）」の必修科目は「キャリアデザイン」と「日本事情」、英語で開講される「Global Business Studies」と「静岡でグローバルキャリアを考える（以下、静岡で GC）」は選択必修科目である。「ABP インターンシップ」は 2 週間以上で必修科目、日本語 6 科目が「日本語教育」の選択必修科目である。

「静岡でグローバルキャリアを考える（以下、静岡で GC）」は、新しいコースを開設するにあたり、留学生就職支援の課題を解決すべく、SCDP 共通プログラムに代わるものとして新規開講した。

表 3：ABP 日本就職コース 履修科目一覧 ((*)= 授業言語が英語)

認定制度の柱	授業科目	単位	履修学年	備考
キャリア教育	キャリアデザイン	1	1 年	工学部は 2 年
	Global Business Studies (*)	2	2 年	1 科目 2 単位以上
	静岡でグローバルキャリアを考える	2	1~3 年	
	日本事情	2	1~3 年	教育・農学部は 2 年
インターンシップ	ABP インターンシップ (教育学部は教育実習Ⅱで代替可)	2	1~3 年	2 週間以上
日本語教育	日本語Ⅰ	2	1~3 年	2 科目 4 単位以上
	日本語Ⅱ	2		
	日本語Ⅲ	2		
	日本語Ⅳ	2		
	日本語Ⅴ	2		
	日本語Ⅵ	2		

3. 学際科目「静岡でグローバルキャリアを考える（静岡で GC）」

3.1 科目の概要

「静岡で GC」は、全学教育科目の教養展開科目の枠組みで通年の集中講義として開講する。授業言語は日本語で、正規課程に在籍する留学生を含む全学部生を対象とするが、これまで留学生以外の受講者がいないため、本稿の報告は留学生についてのみである。授業の目標は、以下の 3 点である。

1. 外国(日本)で職を得ることの意義を明確にし、外国(日本)でのキャリアプランをシミュレーションできるようになる。
2. 生活と学びの基盤となる静岡県とその産業を理解し、静岡県の特色ある企業を知る。
3. 海外の経験や視点を生かして、主体的にキャリアを形成できるようになる。

就職を希望する学部留学生は、日本人学生とともに学位取得を目指す正規生である。日本語力が高く、学内の就職支援サービスを利用できる。しかし、利用の前提として、卒業研究に集中する時期にどうして就職活動をするのか、長くて2週間のインターンシップはインターンシップなのか、学業成績が上位なのになぜ自己分析や企業研究をしなければならないのか、など母国での就職活動と異なる状況があることを理解していなければ、せっかくセミナーやイベントに参加しても、主催者側の意図が正しく理解されない場合がある。加えて、そのようなセミナーやイベントでは、留学生にとって重要な日本語力や在留資格についての情報は得られない。つまり、留学生向けに就職支援が必要なのであるが、大学が提供できる機能は日本語教育以外にない。幸い、静岡県は、ふじのくにコンソーシアムを介して一連の講座としてSCDP 共通プログラムを作った。ただ、単発イベントの寄せ集めだったため、受講者がそれらの学びをどのように取り込み、今後活かすのかまではデザインされていなかった。

表4：「静岡でグローバルキャリア」シラバス（2025年度、浜松キャンパス¹⁾）

授業回	内容
1	講義「外国(日本)での就職の心構え・基礎知識」 （4月/10月、国際連携推進機構）
2-3	実習「県内企業」グローバル採用、交流会 （6月4日(水)15:30~17:00、静岡県国際経済振興会、国際連携推進機構）
4	講義「静岡県の産業構造と外国人人材」（6月18日(水)16:00~17:30、静岡県経済研究所）
5	講義「OBOGから学ぶ日本企業」（7月12日(土)10:00~12:00、静岡県国際交流協会）
6	講義「就職活動 - ESと面接 -」（8月1日(金)15:30~17:00、しずおかジョブステーション）
7	講義「外国での就業と在留資格 - 日本で就業する場合 -」 （10月25日(土)13:30~14:00、静岡県行政書士会）
8	講義「就職活動 - 日本の場合 -」（10月25日(土)14:00~15:30、静岡県国際交流協会）
9	講義「静岡県の企業の採用戦略」（11月6日(木)10:30~12:00、静岡県国際交流協会）
10	講義 日帰り実習の事前講義 （7~8月/12~1月、国際連携推進機構）
11	講義 日帰り実習の準備 （7~8月/12~1月、国際連携推進機構）
12-14	日帰り実習「県内企業」企業説明、見学、社員との意見交換 （8~9月_静岡県国際経済振興会/2月_静岡県国際交流協会）
15	最終報告・全体総括 （2月、国際連携推進機構）

太字=新規の内容、赤=外部団体

表4は、「静岡でCG」のシラバスである。「SCDP 共通プログラム」の第1回を修正、第10・11回と第15回の内容を追加し（太字）、キャリアプランニングの基礎的な科目となるよう整備した。土曜日や長期休暇中の実施もあるが、シラバスで事前に内容と日時を示すことによって、留学生に前もって予定を入れさせ、確実な出席を図った。

3.2 受講生

表5に、2022年度から2024年度までの修了者数と2025年度を受講者数を示す。2022年度から2024年度までの修了者数は19名²である。2025年度は15名が履修中である。

表5：2022年度からの修了者数 (*2025年度は受講者数)

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度(*)
所属学部	人文社会科学部	6	4	7	12
	理学部	0	0	1	0
	情報学部	1	0	0	2
	工学部	0	0	0	1
出身	中国(香港含む)	0	2	4	4
	台湾	0	1	0	1
	韓国	0	1	2	2
	ベトナム	6	0	3	4
	ミャンマー	0	0	0	4
	タイ	1	0	0	0

静岡大学の留学生は、学生約10000人のうち400名ほどだが、この科目の対象となる学部正規生は140名ほどで、6学部にも所属している。受講する留学生には、静岡大学の留学生プログラムの組み立てから2つのタイプがある。

1つ目のタイプは、10月入学のAsia Bridge Program(ABP)の留学生(以下ABP留学生)である。ABPは、日本・地元(静岡県)企業での活躍を期待・想定し、地元企業・団体と連携して構築したプログラムであり、ABP留学生には募集時から地元企業を中心とする日本企業での就職促進を明示している。入学直後から、日本の就職活動の特徴を理解し、将来について考える機会をABP留学生に提供するために、入学時にABP日本就職コースに登録をさせる。ABP留学生カリキュラムには、ABP日本就職コースの全ての科目が含まれている。

2つ目のタイプは、外国人留学生特別選抜により、4月に入学する私費留学生である。彼らは、「ABP4月特別教育プログラム(以下ABP4月)」という、授業料免除に紐づく副専攻プログラムを履修する。私費の学部留学生は2020年度より授業料免除制度の対象から除外され、どれだけGPAが高くても、授業料免除の申請ができなくなった。そこで、静岡大学では、ABP日本就職コースの修了と年1回の国際交流活動企画を要件とするABP4月を設け、この特別教育プログラム履修者のうち成績上位者を授業料免除とする就学支援制度を開始した。留学生には、3月に入学が決定した後に、日本・地元(静岡県)企業での就職に目を向けさせる目的で、ABP4月の履修を案内し、入学してすぐにABP日本就職コースへの登録を行う。先延ばしにされ、遅くなりがちな日本での就職活動について理解を深めさせることが目的である。

このように入学時のコース登録を促した結果、4学年で140名ほどいる学部留学生のうち、ほとんどの留学生がABP日本就職コースの受講者となっている。いずれのタイプの留学生も日本語力は高いが、英語力は留学生によってかなり差がある。英語力が高い留学生は、キャリア教育の科目として英語開講の「Global Business Studies」、または日本語開講の「静岡でGC」を選択する。英語開講科目の履修基準に英語力が満たないが日本語力が極めて高い留学生は、日本語開講の「静岡でGC」を履修する。

「静岡でGC」の履修者は4年間で34名であり、決して多いとは言えない。しかし、この科目を開講することにより、学部留学生がキャリアプランをしっかりとイメージできるように、留学生特化の「キ

キャリア教育（日本企業論等）」をそれぞれの日本語力、英語力に応じて受講できる仕組みを整えることができた。

3.3 授業の目標と学習項目

3.3.1 キャリアプランの明確化

「静岡でGC」の第一の目標は、外国(日本)で職を得ることの意義を明確にし、外国(日本)でのキャリアプランをシミュレーションできるようになることである。シラバス(表4)では、1回目、5～8回目の学習項目が該当する。初回講義で、静岡大学教員より留学生の出身国との違いを示し、これからの大学生活の過ごし方に意識を向けさせた上で、就職支援体制を紹介する。その後、講座やセミナー等で、具体的な内容を学び、元留学生の社員から個別の体験、企業の状況を知るという機会を設ける。

在留資格について(7回目)は静岡県行政書士会が、就職活動の具体的なノウハウは実際に外国人の就職支援を実施している「しずおかジョブステーション」(6回目)と静岡県国際交流協会(8回目)が留学生に必要な事柄を適切に提供する。「OBOGから学ぶ日本企業」(5回目)は、県内の大学を卒業した元留学生の外国人社員による静岡県国際交流協会主催の交流会であり、静岡大学の留学生にとって、静岡大学以外の卒業生とも交流できる貴重な機会を得る。これらを通して、留学生はもし日本で職を得るなら何が必要かを具体的に理解する。また、各団体が、その後の相談先として留学生に認識されるというメリットもある。

受講生からのレポートに書かれた感想からは、「就職活動は年々早期化が進んで」いる、「驚いたのは、中国と比べて就職活動の開始時期が非常に早いことです」「就職活動が3年生から行われることは新鮮な衝撃だった。韓国は普通、4年から準備しても早いと言われる可能性が高い」「日本の就職活動は卒業してから卒業証書で就職先を探すということではない、(メンバーシップ型雇用は)特定の職種に限定せず、社内のさまざまな部署を経験しながら働くスタイルであり、自分の適性や可能性を広げることができる点で、大きな魅力」など、日本企業の採用や就職活動など、留学生の出身国との違いについて気づきを得たことが分かる。

在留資格についても、「自分の専攻分野と関連した職種でなければ認定が下りないという事実」「在留資格変更にあたって社会保険料および税金の(中略)納付義務をきちんと果たすべきであるとの指摘も受けた」「将来は「高度専門職1号口」という在留資格を目指したい」など具体的なイメージ、方策を得たと推察できる。

また、「日本語能力だけでなく、日本のビジネス文化を理解することも重要だと考えます」「日本語・英語以外の外国語の勉強」「できるだけ早い段階でインターンシップに参加」といった具体的な事柄に加え、「自分の生き方に合った仕事を選ぶことが大切だと感じています」「将来に向けて主体的に行動する意志を持つことが重要だと考えます」など、将来を見据えて、キャリアプランを明確化しようという意識が芽生えたことがうかがえた。

3.3.2 静岡県に関する理解

第二の目標は、生活と学びの基盤となる静岡県とその産業を理解し、静岡県の特色ある企業を知ることである。シラバスでは、第2～4回目、第9～14回目の学習項目が該当する。

地元静岡県での活躍を期待し、静岡県の産業と構造について、静岡経済研究所から最新の情報を得つつ(4回目)、静岡県国際経済振興会が主催する交流会(2～3回目)や企業訪問等(9～14回目)

で、企業から直接情報を得る機会を設ける。県内企業、静岡県国際経済振興会の会員企業に限定されてしまうのは確かだが、企業情報が極めて少ない留学生には、たとえ一社でも確実に情報を得る機会は重要である。産業界の最新動向の提供や企業との交流会の企画・実施は、大学の教職員では限界があるが、連携によって留学生に確実に機会を提供できる。

受講生からのレポートに書かれた感想からは、「もっと静岡の良さが知りました」「静岡県について（中略）特に興味を持ったのは、その産業構造の多様性です」「地域の中小企業や観光産業を支える働き手として、留学生の私たちにも貢献できる可能性がある」「静岡県の中中部には有名な食品メーカーが多くあり、将来の就職先として非常に魅力的だと感じました」「さまざまな企業について知ることができ、多くの求人情報や募集要項を見ることができました」「いくつかの大手B2B企業が直接に消費者と接しないだけで今まで知らなかった会社」など、静岡県や県内企業に対する知識を得られたことが分かる。希望する就職先を、大都市圏の企業や母国で名の通った企業から、県内企業に目を向けることが期待できる。

また「文系・理系問わず採用しており、入社後にしっかりと研修プログラムが用意されている」「日本の会社内の飲み会について（中略）そこまでの強要はなさそうで安心しました」や、日本企業をあまり信用していなかったが「世間知らずの妄想で過ぎないことだと気づく」ことができた、など、個別具体的な情報を直接得たことで、固定した企業イメージから脱却し日本企業の多様さを認識したことは、今後の就職活動に向けて重要な一歩であると言えよう。特に「先輩が強調されたのは、日本の職場では、上司を尊重し、会社の規則を守ることが非常に重要であるということ」「先輩方の実体験によると、入社初期に少し躓くことは稀ではない。」「仕事上で、できる自信がない仕事でも、「まずやってみる！」精神が大切だ」など元留学生の社員から得た体験談やアドバイスは、留学生が漠然と持つ日本企業での就職への不安を軽減し、就職活動への前向きな姿勢を促すと思われる。

この他にも、「面接ではより具体的で説得力のある回答を工夫する必要があると気づかされました」「日本企業が採用の際に重視するのは（中略）「企業に貢献できるポテンシャル」、「協調性」である」「自分が今後どのような準備をすれば有利になるのかを考えるきっかけ」「この交流会のため企業とのつながりもできた。（中略）夏休みにはインターンシップに挑戦したいと思う」など、得た学びを自身の就職活動に生かそうとする姿勢も見られた。

3.3.3 主体的なキャリア形成

第三の目標は、海外の経験や視点を生かして、主体的にキャリアを形成できるようになることである。シラバスでは、第15回の学習項目が該当する。最終報告を行うことによって、単にセミナー受講、イベント参加ではなく、全体を振り返り「自分の」進路に関連づけることを促す。

報告会で受講生が述べた「具体的な経験や学び、将来の目標との繋がりを明確に伝えられることが重要だ」からは、在学中に相手に伝える内容と意図を的確に伝える技術を磨く努力をするであろうことが期待できる。また、「自己分析が重要だ」「企業の情報を多角的に集める」「自分の適性や希望するキャリアと一致するか考える」からは、日本留学を含めて自分のこれまでを自己分析の対象とすることや、適性と一致、将来の目標とのつながりなど、主体的にキャリア形成をする視点が得られたと思われる。

4. 今後の課題と展望

2022年から「静岡でグローバルキャリアを考える」という科目を通じて、学内で賄えないリソースを学外と連携することで補うという方略が、特に留学生の就職支援において非常に有効であることを実証できたと思われる。

このような連携には事前の調整が不可欠だが、一方で困難点もある。全体の調整は、2021年度までは静岡県（ふじのくにコンソーシアム）が担当したが、静岡大学の科目としたことで静岡大学が調整を担当しなければならなくなった。前年度の遅くとも1月までにはシラバスに日程を掲載したいのだが、それぞれの機関の予算組みや企業の予定などがあり、実施日時を決定することができるとは限らない。また、特に県など自治体の企画の場合、静岡大学に特化することを依頼できる場合とできない場合がある。ただ、複数大学で構成されていた以前のSCDPとは異なり、静岡大学との調整のみであるため、工夫次第でより静岡大学の留学生向けに調整が可能な面もある。加えて、最終報告会の内容を何らかの形で外部発信することによって、さらに静岡大学との有機的な連携に繋げられる可能性がある。今後の課題として検討したい。

少子高齢化、労働力不足、産業構造の転換など、さまざまな社会問題を抱える日本社会にとって、日本に一定期間滞在して日本社会・日本人に慣れ、日本人学生と同じ課程を修了した外国人は貴重な人材である。一般的に学部留学生は日本語能力が高いが、日本語能力が高いからといって、彼らがみずから進路の幅を広げ、主体的にキャリア形成を図っていきけるわけではない。

高い日本語力を持つ留学生自身が適切なタイミングで必要な情報を得て、自ら進路を選択できるようにするためには、学内では日本語教育・キャリア教育の連携、学外とはさまざまな機関との連携による支援体制の構築が不可欠である。連携したからといって、すぐに効果が出るわけではないが、引き続き、より良い方策を探っていきたい。

¹ 静岡キャンパスでも同じ内容であるが、外部団体によるイベントやセミナーは日程が異なる。

² 19名以外に、2024年度には、特別聴講学生（ベトナム）が1名修了した。

参考文献

- ・一般社団法人日本国際協力センター（2020）『留学生の就職促進に関する周知及び調査研究（留学生就職促進プログラム）成果報告書』
https://www.mext.go.jp/content/20200521-mxt_gakushi02-000007326_1.pdf(2025年8月5日閲覧)
- ・鈴木加奈子・袴田麻里・野口直子（2020）「ふじのくに留学生就職促進プログラム「SCDP 共通プログラム」～キャリア教育と日本語教育の融合を目指して～」『静岡大学国際連携推進機構紀要』第2号、pp. 63-76、静岡大学国際連携推進機構
- ・鈴木加奈子・袴田麻里・野口直子（2021）「キャリア教育と日本語教育の融合による可能性を考えるー「SCDP 共通プログラム」と日本語科目の連携の試みからー」『静岡大学国際連携推進機構紀要』第3号、pp. 29-46、静岡大学国際連携推進機構

参照 URL

- ・厚生労働省『第11次職業能力開発基本計画』
<https://www.mhlw.go.jp/content/11801000/000760054.pdf> (2025年8月5日閲覧)
- ・文部科学省(2017)「平成29年度留学生就職促進プログラム公募要領」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/02/06/1381850_1_1.pdf (2025年8月5日閲覧)
- ・文部科学省(2021)「留学生就職促進教育プログラム認定制度実施要項」
https://www.mext.go.jp/content/20240628_mxt_kotokoku02-000036767_02.pdf(2025年8月5日閲覧)